

会 議 録

会議名称	令和3年度第2回大空町社会教育委員会議	
開催日時	令和4年3月29日(火)	18時30分から 19時45分まで
開催場所	東藻琴農村環境改善センター ホール	
出席者の氏名	(委員) ※敬称略 大井 徹也 原本 光枝 中村 厚志 村上 守 森 敦 久井 俊範 大辻 雄介 植松 あゆみ 河崎 琢哉 鈴木 智子 大泉 知功 苫米地 光留 横野 宏美 (教育委員会) 渡邊教育長 菅野参事 砂金主幹 歌丸主幹 南部主査 河西主査 吉本主事 中村主事補	
傍聴者の数	—	
会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和3年度第2回大空町社会教育委員会議 議案</li> <li>○ 別紙1 令和4年度以降の成人式について</li> <li>○ 別紙2 令和4年度社会教育関連予算</li> <li>○ 別紙3 令和3年度大空町社会教育推進計画(単年度)</li> <li>○ 別紙4 令和4年度大空町教育推進方針(社会教育推進の方針)(案)</li> </ul>	
審議内容及び結果	開会 ○大井委員長挨拶  ○渡邊教育長挨拶  ○報告第1号 令和3年度社会教育委員活動について 事務局より議案を参照しながら説明。	

以下のとおり意見があった。

大井委員長：本年度置戸町にて開催された社会教育セミナーについて報告する。置戸町には、食育のスペシャリスト佐々木トミ氏があり、年に数回佐々木氏を中心に集まって食事を作って、学んで、町民の皆さんに配布して食べてもらうという事業を行っているとのこと。まさに食育を通した町づくりということで、老若男女楽しく語らう姿が印象的だった。ぜひ大空町でも、このようなことができる可能性があればと感じた。

○報告第2号 令和4年度以降の成人式について  
事務局より別紙1を参照しながら説明。  
質疑なし。

○報告第3号 令和4年度社会教育関連予算について  
事務局より別紙2を参照しながら説明。  
質疑なし。

○議案第1号 社会教育中期計画における令和3年度事業評価について  
事務局より別紙3を参照しながら説明。  
質疑なし。

○議案第2号 令和4年度大空町教育推進方針（社会教育推進の方針）  
について

事務局より別紙4を参照しながら説明。

以下のとおり質疑応答があった。

大辻委員：（2）①姉妹都市・友好町の交流の在り方を検討すると記載があるが、具体的には何か。

歌丸主幹：令和3年度に姉妹都市稲城市との児童交流の中で実施できたふるさと教育交流において、お互いの地元の紹介映像をDVDにして交換した事業を行った。そこからさらに進んで、オンライン交流まで実施できたので、同じように友好町氷川町でもオンライン交流等していければと思っている。今回令和3年度については、お互いの自分の町、学校の紹介を交換することに対しての質問・感想の交流だったので、そこから一歩発

展させて継続的な取り組みができればと思っている。

大辻委員：本校は今年度までは氷川町に修学旅行として訪問させていたでいた。高校生が氷川町の農家にお世話になるという機会があったが、来年度から変わってくる。高校が総合学科に代わり農業科ではなくなるというのは、一抹の寂しさもある中、よく考えたら全国募集している高校なので、こういう姉妹都市や友好町から大空高校を選んでいただける方がもしかしたらいるかもしれない。特に小中学校のタイミングで行き来して大空町にいい思い出を持っている子どもたちが、ここにはいるんだなということを改めて認識しており、特に稲城市は都会で、市内の高校だけが選択肢ではないと思われるため、今後一緒に検討していければと感じた。

久井委員：大辻委員と同じ部分のあり方という部分について、本年度ICTを活用した交流を行ったとのことだが現地に行けたらやらないのか。

歌丸主幹：当初、保護者説明会の中でご意見いただいたとき、いけないのはかわいそうだという意見があり、何かしら訪問受け入れができない代わりとしてオンライン交流等あったが、コロナ禍でなかったら、こういう取り組みもできなかったのかなと考えている。今後については生の体験とICTを活用した事業が必要になってくるのではないかと考えている。具体的な提示は今ではできないが、今後検討していくことが必要なのではないかとあり方を検討すると記載させていただいた。

渡邊教育長：基本的に稲城市児童交流事業は小学校5年生同士の訪問受入、氷川町については中学校2年生同士の訪問受入するという事業をずっとやってきており、今年度で30年になる。これについては基本的にそのまま継続するという考え方でいる。ただここ2年間生きたい子どもたちはたくさんいるが、コロナで実現できていないということで、今年度リモートによる交流事業となった。これは代替としてやむなくやっていることではあるが、令和4年度以降もどんな形になるか先が見通せないけれども、コロナが収束してくれば、当然前の訪問のやり方に復活させて、ぜひ行き来をし

たい。そこを前提として捉えている。ただ、この教育推進方針に書いてある表現の仕方だと、今までやった部分が変わってしまうのかというようにとられかねない表現になるのではないかと私も案を見てて思った。ここはそのまま「～事業を推進し、～」としておいたうえで、追加で「様々な交流の在り方について検討する」といったものを表現したほうが担当者の考えと合っているんじゃないかと感じた。

歌丸主幹：一文の中で表現をしてしまったので、今までのものを無くして、と捉えられる可能性があるのではないかというご指摘と、久井委員の話をふまえて、文脈的に変でなければ、醸成するの後に「また、今後様々な交流の在り方を検討していく」という表現で良ければ修正をさせていただきたいと思う。

○その他 生涯学習センター郷土資料室について  
事務局より別パンフレットを参照しながら説明。  
以下のとおり意見、質疑応答があった。

大井委員長：三つ折りのパンフレットを開いたとき、問合せ先が女満別ので展示場所が女満別にあると勘違いしてしまうのではないか。めくって裏をみれば真ん中に東藻琴で展示していると記載があるのでわかるが、一目で見たときわかりづらいのではないかと思う。

河西主査：お問合せ先等の記載場所について、今後検討していきたい。

久井委員：パンフレットに載っている女の子の名前はないのか。

河西主査：名前は特に設定していない。フリーソフトで作っている女の子なので、こちらで名前を付けて良いものかわからなかったのをつけていない。

○閉会 委員長閉会挨拶